図書館とともにすすめるまち・教育・情報の未来
図書館総合展
Library Fair & Forum _ONLINE_plus

図書館総合展

座談会「多文化サービスについて」

多言語絵本の会RAINBOW

開催趣旨

- 2003年、国際結婚の外国人ママから「私の言葉は日本では必要がない」というのを聞き、このようなことを言わなくて良い社会であってほしいと思いました。
- 2006年、図書館などで多言語よみきかせを始め、2009年から多言語電子絵本を作っています。
- 去年、今年の2回に分けて、作品を全国の図書館に寄贈しました。
  必要な人に届けるには、図書館資料にするのが良いと思ったからです。

- 外国につながる子どもたちの**母語や、母国語の保持、育成**は、家庭にまかされています。**社会的に応援ができるのは、図書館です。**
- しかし、外国人は図書館にあまり行きません。
  どのようにしたら、行きやすい図書館になるのか、それは、**図書館が、たくさんの外国人とつながっている国際交流協会や団体と連携**することだと思います。
- その例をいくつか知り、今後に生かしていきたいというのが、本会の目的です。

話の流れ

4.　**図書館で多文化交流**

例1、多言語よみきかせ

世田谷区立中央図書館と民間団体「ブッククラブえほんだな！」との連携

例2、おやこにほんご教室

豊中市の図書館と国際交流協会との連携

5.　山田先生のお話

母語、母国語の継承の大切さと、子どもの知的発達と読み聞かせの関係

6.　事前コメント紹介とまとめ

本日、お話しくださる方

- 山田　泉氏（元　法政大学教授）
  多文化共生という考えのもとでの地域日本語教室の在り方を導いてこられました。
- 山野上隆史氏（とよなか国際交流協会事務局長）
  市立図書館と連携し、「おやこにほんご教室」を運営しておられます。
- 矢部　剛氏（元　伊藤忠記念財団電子図書普及事業部長）
  長年、マルチメディアデイジー作品を作ってこられました。
- 片桐早織氏
  アラビア語で紙芝居をつくっておられます。
- 長嶺今日子氏（ブッククラブえほんだな！主宰）
  地域図書館で多言語よみきかせのお話し会を継続してこられています。
- 司会、主催　石原弘子（多言語絵本の会RAINBOW代表）

まず、16人の外国人の声を聴いてください。

- マルチメディア　デイジーは
  印刷物の文字が読めない人
  （知らない言語に対しては、誰もが該当します）
  活字が見えない人
  ページがめくれない人
  の読書を助けてくれます。
  YouTubeは見るもの、デイジーは読みを助けるものです。

- 制作用のやさしいソフトがあります。

- 読み取りソフトが必要、WindowsのPCのみ対応という不便があります。

- ChattyBooksは、
  マルチメディアデイジーをWeb上で読めるようにしたもので、
  見る人が普段使っている、そのブラウザーに表示されます。
  パソコンのOSに関係なく、iPadでもAndroid版のスマホでも再生します。

・ RAINBOWの作品は、すべて、ChattyBooksの形になっています。
  障がいを持つ人も、持たない人も、だれでも使えます。

・ 図書館では、マルチメディアデイジーは、障がい者サービス資料となっているので、外国人が利用しにくいです。
  児童サービスのところに配架してほしいです。

今年の新作は、台湾語の作品、ベトナム語の作品、インドネシア民話、アラビア語の作品です。

エビの腰が曲がったわけ
（オンライン実演）

キジとニワトリ

バインチュン・バインザイ

シカとヤドカリの
競争

臺灣囡仔古「虎姑婆」
ー台湾語

台灣民間故事「虎姑婆」
ー北京語

今年の新作のうち、台湾語については、台湾語を子供に残したいという方のリクエストで作りました。すでに北京語でできている「とらばば」の台湾語版です。

事前に寄せられたコメントから

●英国で幼児と生活したことがきっかけとなり、その土地の言語以外の言葉に触れる機会を子供たちにどのように残せるか？について日々考えています。特に、日本という地域柄、日本語の力が強い感覚を持っており、どのようにしたら多言語の環境を子供達のために残していけるかを日々考えております。
この数年で、多言語環境についての日本（特に東京）のコンディションは、どのように変わってきているのでしょうか？
（韓国の方）

●多言語読み聞かせは、日本では言語的マジョリティに属する自分が、多様な文化的背景を持った方々と共に暮らしていることを実感させていただける大切な時間です。
参加者全員が本来の自分を認められ、活かせる場として、この事業が広がり、長くあり続けることを願っています。
（多言語よみきかせに参加された方）

●学校の図書館にも多文化サービスが必要。そのためにも学校専任司書の全校配置、図書の廃棄と整備、基準を満たす蔵書数を確保すること。そのうえで、英語だけでなくその学校に在籍している子どもの母語でかかれた図書を購入すること。公共図書館から学校図書館への団体貸出をスムーズにするため、図書運搬サービスが必要。
（小学校教員）

- 図書館で行う「多文化サービス」で、地域日本語教育や多文化共生イベントをどこまで主催して取り組むべきか悩んでいる。
  市役所の担当課や地域の国際交流協会と連携協働して実施していこうと努力しているが、なかなか連携がうまく進まない。
  （図書館員から）
- 今年の企画は、急遽だったので、国際交流センターにお知らせできなかった。
  来年はよりよい図書館サービスをしたいので、録画公開を待っている。（図書館員から）
- 学校図書館や公共図書館で、多言語絵本が普及してほしい（個人）
- 教職員や図書館職員に母語の大切さの理解が進んでほしい（個人）
- 開かれた図書館になるよう、利用者側も協働していく必要がある（個人）
- 子どもの多読の進め方を知りたい（JSL教室）

参加者のコメントから

●外国にルーツのある生徒がたくさん在籍している高校で、絵本を多言語に翻訳をしたり、
また、外国語の絵本を近くの保育園や小学校で読み聞かせの活動に取り組んでいる学校があります。

私たちのNPOは、そのような多言語の絵本を利用した活動を始める学校を支援する準備をしています。

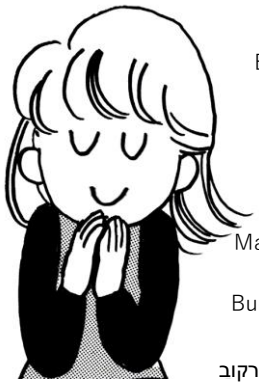
自分の母語で、母国のお話を読む高校生は、自分の母語、母文化に誇りを持ち、それが自尊感情につながっていっているようです。

また、多言語で絵本の読み聞かせを聞く子どもは、世界には、いろんな言葉と文化、お話があることを絵本を通じて知ることができ、お互いがウィンウィンの関係で豊かな多文化共生社会の実現に広がっていくことと思います。

孤立しがちな来日した子どもに主役になれる機会を提供することは、子どもの自尊感情を高め、それぞれのアイデンティティに自信をもつきっかけになると考えています。

「外国人も行きたいと思う図書館って？

どんな図書館？」



Habari ya Asubuhi

Bom dia

Chào buổi sáng

早上好

සුබ උදෑසනක්

Bonjour!

Guten Morgen

Gâu-chá

يخلا حابص

Xayrli tong!

শুভ সকল

Buongiorno

Selamat Pagi

God morgon

안녕

おはよう

Magandang Umaga

Buenos Días

Доброе утро!

Dzień dobry

בוט רקוב

Mirmëngjes

と、思える図書館

Good Morning

おしゃべりが　できる図書館

親子で参加できるプログラムのある図書館

とよなか国際交流協会と豊中市立図書館の事例

親子参加、多文化体験の事例として、とよなか国際交流協会の例を紹介しました。

たなばた

折り紙体験など
日本文化が体験できる
図書館

手遊びなど、外国の文化が体験できる図書館

よみきかせが　できる図書館

2冊の絵本で、中国語と日本語

1冊の絵本で、スワヒリ語と日本語

世田谷区立中央図書館とブッククラブえほんだな！の事例

多言語よみきかせの事例として、世田谷の例を紹介しました。

講座ができる図書館

RAINBOWの
小学校での活動より

講座ができる図書館

RAINBOWの
小学校での活動より

図書館で
情報と出会い
人と出会い
人とつながる----
そんな図書館がほしいです。

外国人も日本人も行きたいと思う
そんな図書館がほしいです。

伊藤忠記念財団と都道府県立図書館の協働事業のように、
各地の図書館が、地域の外国人や民間団体と連携して、
新しい多言語電子絵本制作にとりくんでくださると、
子どもたちが、いろいろな言語に出会える機会が増えます。
そんなことを願って、企画しました。

以上が本企画の目的です。

図書館総合展 座談会「多文化サービスについて」終了後アンケート　20 人

<国際交流協会関係者>

- 以前クレアの研修で豪州に研修に行った時に、図書館で移民のための無料の英語教室、PC 教室、宿題のサポート等があり、また、各言語の書籍コーナーや雑誌等も充実しており、書籍等が見当たらない場合は、中央図書館のようなところから取り寄せるようになっていました。研修の最後には参加者の簡単なプレゼンがあり、和歌山の図書館にもそうした機能を持たせたいと発表しながらも、何もできていないことに気づきました。ただ、日本語教室の空白地域解消の取り組みの一環で生まれたばかりの NPO が海南市の図書館で日本語教室を展開するのに全面的に協力することを約束しているので、その図書館に対しても今後働きかけが必要だと気づかされました。和歌山県国際交流協会に勤務しておりますが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

- 貴重なお話をありがとうございました。図書館でなされている多言語共生・サービスが現業に生かせないかという目線を持って参加しておりました。国際交流センターに勤務しており、私たちが役に立てることのヒントを頂いたと思います。子どもたちの感受性が成長していくときに、質の良い絵本を通して沢山の国や地域のことばを聞いたり、挿絵をみて感じることや知ることの大切さを改めて感じました。

- 国際交流協会で、外国ルーツの子どもたちの居場所づくりをしています。毎週絵本タイムを設けていて、日本語の絵本は日本人が、多言語の本は保護者や子どもたちに読んでもらうようにしています。ただ、図書館とのつながりを持ちたくて、市立図書館に、外国ルーツの子どもたち,の図書館見学、多言語絵本の購入、多言語読み聞かせの会の実施などを提案しています。図書館見学は受け入れてもらいましたが、本の購入と読み聞かせの会は、予算とコロナが理由で難しいと返事をもらいました。指定管理であることも原因のひとつかもしれませんが、図書館との協力関係をすすめていくことの難しさを感じています。今日お話いただいた事例を聞いて、とてもうらやましいと思いました。何か、一歩すすめるヒントなどあれば教えていただたきたいです。　また、学校図書館でも多文化サービスをすすめてほしいという願っています。学校司書の方にアンケートを取りましたが、多言語の本を集めることは必要と考えても、そこを交流の場にするという考えはあまりないことが分かりました。学校図書館も多文化交流の場になるよう、先行事例を紹介したいと考えています。

＜図書館関係者＞

● 在住外国人の日本語学習に関心がありますので、豊中の事例はとても参考になりました。図書館と他機関との連携の必要性を感じています。

● 矢部さんと山野上さんのお話が特に印象的でした。ただ、地方都市である菊池市の状況と東京、大阪をはじめ大都市の状況の違いがあり、ニーズの違いが大きいと思いました。本市では、ほとんどが技能実習生で、ベトナム人が 6 割近いというのが現状です。
貴重な機会を頂き、有難うございました。

＜大学付属図書館関係者＞

● 大阪府の箕面市立船場図書館の管理運営をしている大阪大学附属図書館の職員です。船場図書館は大阪大学外国語学部と隣接していることで、文化芸術国際交流拠点にできないかとの市立図書館の考えがあり、その一歩として参加させていただきました。多言語翻訳電子ブックのお話、読み聞かせ会のお話、国際交流協会が図書館を交流の場として選んだお話、それぞれに興味深く拝聴しました。特に豊中市は隣接地（私は豊中市在住です）であり、山野上さまの取り組み、山田先生のお話は身近なものだったのだと知りました。また教えていただくこともあるかもしれません。どうかよろしくお願いします。

＜企業図書館関係者＞

● どの方のご発表も凄かったです

＜社会教育関係者＞

● 大変良い企画に出席させて頂き有り難うございました。 各図書館での事例に触れることが出来、勉強になりました。 少し紹介されたルビを付加したり読上げるソフトも参考になりました。
図書館では賑やかにしても良い海外のお話や、親切で詳しく解説などを行う事が、 違法な翻訳になってしまう等、難しい問題が絡むのですね。 とにかく有難うございました。

＜大学関係者＞

● どのお話も実践者ならではの説得力のある内容でした。ありがとうございました。

● 登壇者の方々のお話をとても興味深く拝聴しました。それぞれの方の取組が緩やかにネットワークとして繋がっていけると、支援の届きにくいところにも支援が広がっていくような気がしました。貴重なお話をありがとうございました。

● ありがとうございました。大変勉強になりました。

＜NPO 法人関係者＞

● これからのバリアフリー図書館には、必ず、外国人住民も利用しやすい図書館作りが必要だと思います。多様な文化・習慣、言語、宗教があることを受け入れ社会である我々市民も学んでいかなくてはいけないと思います。 いろんな人、団体、情報が繋がっていくことを願っています。

＜学校図書館支援員＞

● 誰でも利用できる図書館が本を借りたり読んだりするだけ場所だけではなく、地域に住んでおられる外国

人と日本人の出会いの場所であり、多文化交流の場所にもなることを、 願っています。 図書館も多文化や多言語サービスを進めておられるのでしょうが、 外国人からのメッセージの中にありましたように、外国人のかたに知ってもらえる、 情報が届く 手だてが必要だと感じました。 図書館利用者と図書館の方との会合に、地域の外国人のかたが、参加されることはあるのでしょうか。 それが、特別なことではなく、もっと 気軽に、外国人のかたから、直接、声を聞ける機会があればよいのにと感じました。今回の外国人のかたからのメッセージを、たくさんの 図書館のかたに聞いていただきたいです。メッセージを集められたこと、とても素晴しいことだと思います。 わたくしは、小学校の学校図書館支援員をしておりますが、まずは、英語の絵本だけでは なく、在籍している児童のお国の絵本を置いてみたいと思いました。 外国語の絵本の入手は難しいですが、多言語絵本の会 RAINBOW の多言語電子絵本文庫を 学校図書館に置きたいと思っています。電子絵本を、小学校図書館の蔵書には、まだ できませんが、先生がたに、知っていただければと思います。 外国につながるお子さんのため、そして、多文化共生の社会で育つ日本人のこどもたちのため、教育活動のなかに取り入れてくださることを願っています。 今回、様々なお立場のかたのお話を伺い、たくさん、学ばせていただきました。 最後になりましたが、お礼を申し上げます。ありがとうございました。

<個人>

- 日本人も外国人も共に図書館の中で活動できたら、皆が参加しやすくなるだろうと思うと、目黒区の図書館の門戸開放を願うばかりです。

- 「本」を媒介にしていろいろな活動をしている方々がいらっしゃることが分かってとてもよかったです。 さらに、図書館の壁は、やはり厚いのだなあとも思いました。 お金があれば、ソウルにあるような多言語図書館を作れればいいのですが…。 1 階はカフェ、2 階は子どものため、3階は大人の多読のため、4、5階は各言語の図書、 6階に地域日本語教室、7 階にプライベート用貸し出しブース。8階はホール。9 階事務所兼自宅（笑）というのが私の妄想です。この妄想の実現は無理だろうと思いますが、 今日伺った本の読み聞かせなどを参考にして現在の活動に役立てようと思いました。 今日は本当にありがとうございました。

- 多言語絵本の活動が日本人にとっても多様性にふれる学びの機会であることがよくわかりました。図書館が外国人の家族にとって信頼できる存在であること、活動が広がる場であることがよくわかりました。同時に、図書館だけではできないことがあることもわかりました。 とても勉強になりました。Rainbow の活動を応援しています。

- それぞれの分野で関わっておられる方々のお話を伺うことができ、とても勉強になりました。ありがとうございました。

- 地域の図書館の在り方について考えるきっかけになり興味深かった。